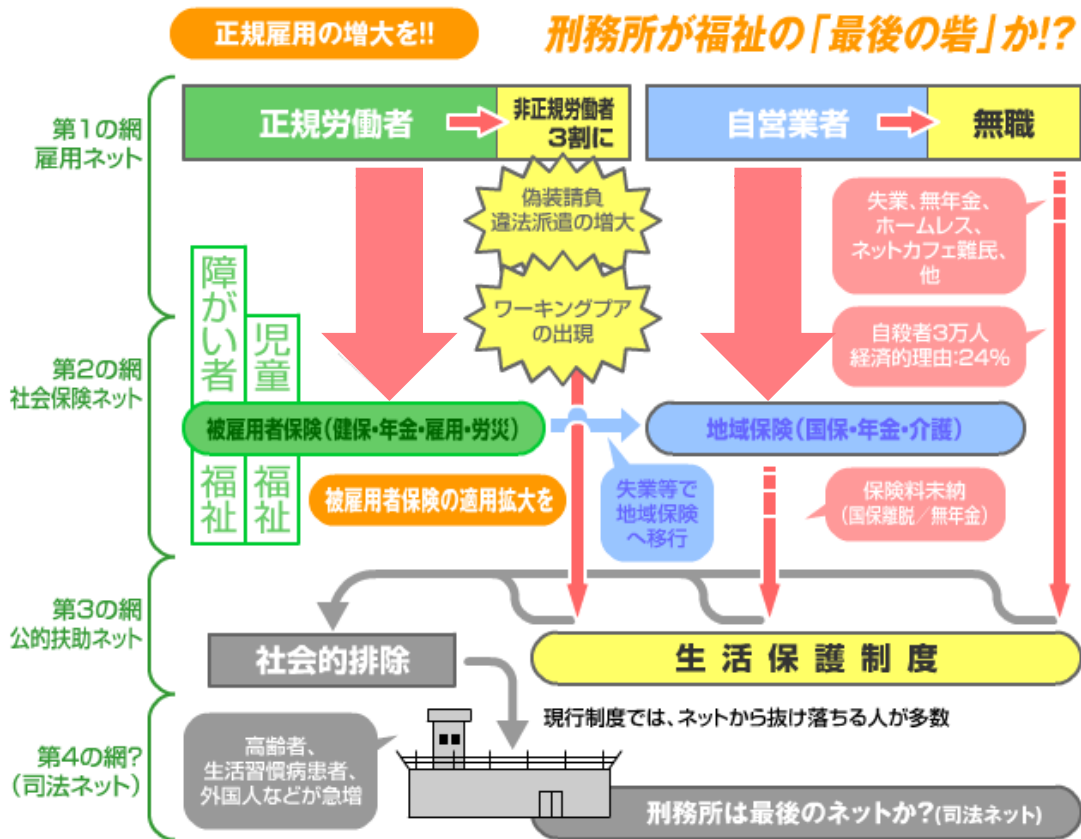


① 連合の提案する新たなセーフティネット

(1) 機能不全に陥った社会的セーフティネット



非正規労働者、長期失業者、地域の零細事業者、障害者、母子世帯、高齢の単身女性など、厚生年金、雇用保険、健康保険にも加入できず、国民年金や国民健康保険の保険料を払えない層が増大しています。

非正規雇用、低所得ゆえに、社会的セーフティネットの中核をなす社会保険制度から排除される貧困層が増大し、国民「皆保険」「皆年金」制度も崩壊しつつあります。

しかしながら、低所得、貧困層の「最後の砦」であるべき生活保護制度は、稼働年齢などを理由に多くの人が申請窓口で拒否されており、本来の機能を果たしていません。

そのために、刑務所が福祉の「最後の砦」化しています。受刑者には、雇用や社会保障のセーフティネットから排除された高齢者、心身疾患患者、外国人等も多く、その中には、出所しても雇用の場もなく、生活保護も受けられないために、再犯を繰り返す人も多いと言われています。本来、これらの受刑者は、福祉・社会保障制度で支えられるべき人たちです。

まさに、雇用ネット、社会保険ネット、公的扶助ネットによる社会的セーフティネットが機能不全に陥っているといえます。